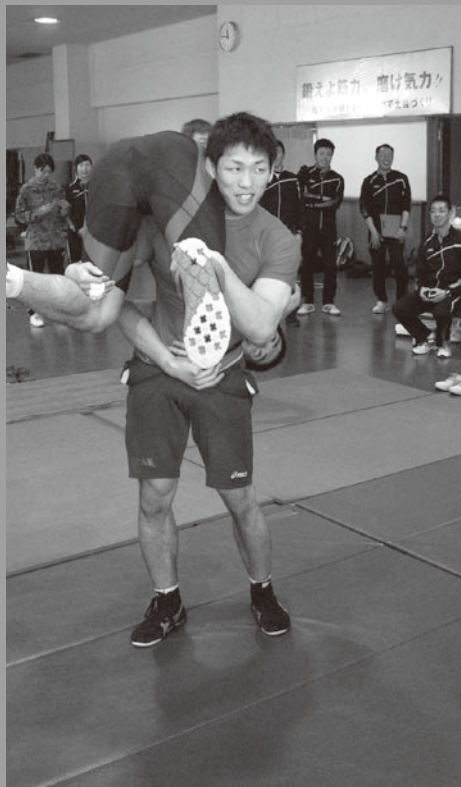
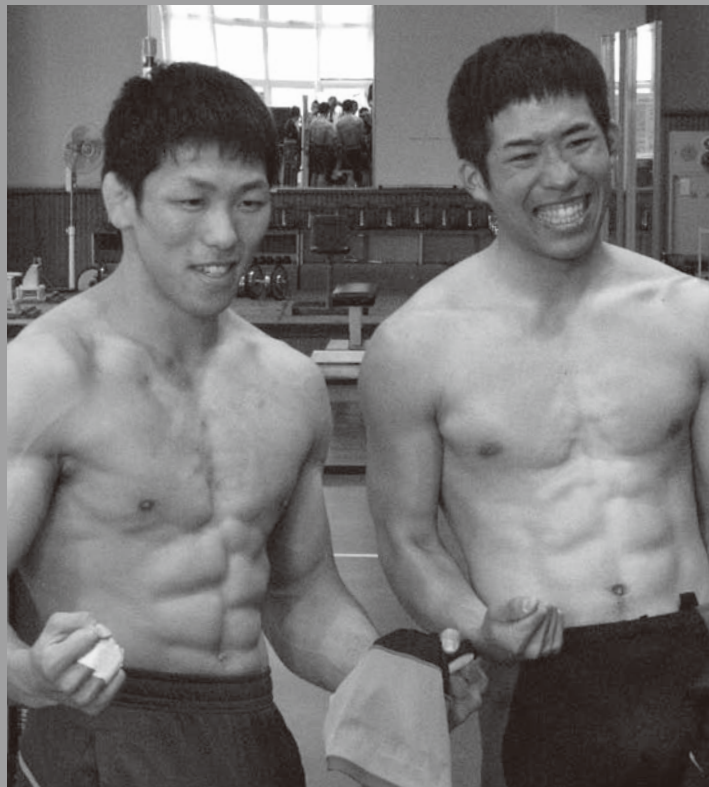




体幹トレーニングに四苦八苦



米満さんに軽々と担がれてしまう



金メダリストの2人(左・米満さん、右・小原さん)と吉田選手

ソチ冬季五輪、

～スキー距離、陸上自衛隊・吉田圭伸選手～

来年2月に開幕する冬季五輪ソチ大会(ロシア)で金メダルを目指すスキー距離のアジア・チャンピオン、吉田圭伸選手(26)＝陸上自衛隊冬季戦技教育隊、中央大学法学部2009年卒業＝が5月9日に東京・練馬の自衛隊体育学校を訪れ、昨夏ロンドン五輪金メダリスト2人から「金メダル獲得の秘策」を授かった。バイアスロン競技アジア大会2位の鈴木美由子選手も同行した。

日ごろ北海道真駒内で勤務している吉田選手にとって、体育学校訪問は初めて。迎えてくれたのはロンドン五輪レスリング女子48kg級優勝の小原日登美さんだ。

バランス感覚を養い、メダル獲得につなげたという体幹トレーニングで度肝を抜かれた。金メダリストはバランスボールに乗ったトレーニングでも体勢を崩さない。柔軟性と瞬発力が際立つ。吉田選手は体がぶれる。「持久力が求められるスキー選手に

は苦手かもしれないな」(指導陣)。

顔に精気が戻ったのは、ロンドン五輪男子レスリング・フリースタイル66kgを制した米満達弘さんと対面したときだ。「投げてください」と懇願し、いざ激突。筋肉隆々の金メダリストは戸惑いながらも175cm、70kgの吉田選手を軽々と持ち上げるなど子ども扱い。

「全力で倒しにいったのに3秒もたなかった。強い。同じ人間とは思えない。私も相手に圧迫感を与え

られるような選手になりたい」。ダメージを受けながらもスキー距離の第一人者は笑顔で話した。

目立ちたがり屋



2人からアドバイスももらった。「最後は自分が信じたものを出す。自分を信じられるようになるには練習です」(小原さん)「苦しいときはお世話になった人を思い出した。自分だけの力より、何倍もの力がわ



日本選手権男子50kmで優勝した滑り(写真提供=陸上自衛隊冬戦教)

活躍を誓って



略歴 吉田圭伸選手(よしだ・けいしん)
1987年1月12日生まれ。北海道音威子府村出身。
おといねっぶ美術工芸高一中央大学。
2011年世界ノルディック15kmC12位、同大会リレー6位(第2走者)、
同年アジア大会15kmF優勝、10kmC優勝。
2013年全日本選手権50kmC、15kmF優勝。(Cはクラシカル、Fはフリースタイル)。
名前の由来は「踏まれても伸びてくる草のように遅くなる」との意味がこめられている。



いてくる」(米満さん)

体育学校は1964年東京五輪でのメダル獲得のために、61年に設立された。重量挙げで三宅義信選手が表彰台の頂点に立つなど、日本のスポーツ界をリードしてきた。

校内には五輪やアジア大会のメダリストの表彰がずらっと並ぶ。「日の丸」が掲示され、壁には「めざせリオ五輪」の張り紙。学校長要望事項として「所命必遂」とある。緊張の糸がぴーンと張っている。

「オリンピックで成績を残す、人生を変えられるのがスポーツだと思います」と吉田選手は言う。「全国中学校大会で優勝して、オリンピックを意識しましたね」

出場予定のスキー距離50kmは閉会式の前に行われる。夏季五輪最終日の男子マラソンに似た大会の花形種目だ。「ノルウェー選手が強いけど、私は目立ちたがり屋だから」

その背中を体育学校副校長で前冬戦教隊長の岸良和典氏が押す。

「きょうの体幹トレーニングを習得すればタイムは2分速くなります」
メダルにまた一步近づいた。

夫人は明星大出身

いまでも中大時代のレーシングスーツを着るときがある。「いろいろなことを思い出します。つながりが長いです。スキー部の総会にも行きます」と吉田選手。洋子夫人(神奈川県出身)は中大近くの明星大学出身で「それでまた盛り上がりまして、はい」と照れた。